

福岡中学校 英語科 2月アンケート結果 考察

1 アンケート結果

- ・ 設問（1）から、7月、2月ともに9割の生徒が「英語の授業を楽しみにしている」という肯定的な回答をしています。
- ・ 設問（2）から、7月は8割、2月は7割の生徒が「進んで英語で話している」と回答しています。
- ・ 設問（3）から、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」において、「できる・だいたいできる」と回答した生徒が7月よりも増えていることが分かります。しかし、まだ3割の生徒が苦手意識を持っているようです。
- ・ 設問（4）（5）から、「外国の文化や生活を知ることができた」「英語学習が将来役立つと思う」と回答した生徒が7月よりも増えていることが分かります。
- ・ 今年度は、2学年においてオーストラリアの中学生とオンライン交流会を2回実施しました。全ての生徒が「今後も続けていきたい」と回答しています。

2 今年度の成果

- どの学年の生徒も意欲的に英語の授業に取り組んでおり、明るい雰囲気の中で授業が行われています。今後も生徒の意欲が高まるような学習活動を取り入れるとともに、安心して発言できる雰囲気づくりに努めます。
- 今年度は「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」に重点を置いて指導してきました。7月の結果と比較すると、「話すこと [発表]」において肯定的な回答をしている生徒の割合が14ポイント増えています。英語による発話を増やすことは、実践的なコミュニケーション能力の育成につながります。また、最近の英語教育では、実際の発話による英語の運用が文法や語彙の定着にもつながるとされています。

3 今年度の課題

- 「書くこと」を苦手としている生徒が他の領域と比較して多いようです。その要因として、「基礎的な単語を書くことができない」「文法や連語、慣用的表現に沿って文を組み立てることができない」ことが考えられます。

4 令和5年度の重点事項

- ◎ 「書くこと」を苦手としている生徒が多いことから、基礎的な英単語を確実に書くことができるようにするために、家庭学習と授業を連動させて語彙の定着を図ります。現行の教科書では約2,300語の英単語が取り上げられていますが、そのうちの1,000語を「基本語（教科書では太字で表されている語）」として、話したり書いたりして発信できる程度にまで定着させることを目指します。
- ◎ 身近な話題について、既習の文法や連語、慣用的表現を用いて表現する学習活動を設定し、話したり書いたりして発信する力を高めます。